

# 平成27年度「山口BBS会サマースクール」

## 事後報告書

発行 山口BBS会

## サマースクール開催要綱

- 1 名称 平成27年度 「山口BBS会 サマースクール」
- 2 趣旨 本年も法務省の提唱により第65回「社会を明るくする運動」が実施される。当山口BBS会ではその趣旨に賛同し、その運動の一環として、自然の中で山口BBS会が対象としている湯田小学校の児童、ともだち活動の子どもたちと共に、3日間の集団生活を過ごすことにより、社会に適応できる力を養い、かつ楽しい生活が出来るよう援助し、社会を明るくするために寄与することを目的とする。私達山口BBS会会員は、3日間の集団生活を共にすることにより、さまざまな境遇の子どもたちに対する理解と愛情を深め、非行防止活動の更なる発展の場とする。
- 3 主催 山口県BBS連盟 山口BBS会
- 4 後援 山口県  
山口県中央児童相談所 山口保護観察所  
山口県保護司会連合会 山口県更生保護女性連盟  
山口市  
山口市社会福祉協議会 山口保護区保護司会  
山口地区更生保護女性会  
周南市  
周南市長
- 5 期間 平成25年8月10日（月）～8月12日（水）
- 6 場所 周南市大田原自然の家  
〒745-0511 山口県周南市大字中須北3194番地  
Tel 0834-89-0461  
Fax 0834-89-0461
- 7 参加者 山口BBS会が対象としている湯田小学校の児童数名  
山口BBS会会員30名程度

8 連絡先

(事務局)

〒753-0034

山口市下堅小路254

山口市福祉センター内 山口BBS会

(会長)

高佐 和明

(サマースクール実行委員長)

蒲 英樹

<サマースクールの成立について>

ともだち活動としてのケース活動やメンタルフレンド事業で行われたのが始まりである。その後ともだち活動が少なくなり、企画が成り立たなくなった。

その後湯田小学校訪問の時にお世話になっている先生の手助けにより、湯田小学校訪問に来ている児童と、湯田小学校を卒業した湯田中学校の生徒を呼ぶことになった。

その後担当の先生が替わられたこともあり、湯田中学校の生徒は呼ばず、湯田小学校の児童のみとなった。また、ともだち活動で対象とする子どもたちにも、引き続き参加を呼びかけている。

2001年 ケース活動で対象としている少年と湯田小学校の児童を呼ぶ。

↓

2002年 適応指導教室の児童・生徒を呼ぶという話は出たものの、湯田小学校の子のみの参加となる。

↓

2003年 BBS会員の中で瀧上中学校と関わりのある者がいたため、瀧上中学校の生徒と湯田小学校の児童、湯田小学校の卒業生の参加となる。

↓

2004年 同上。

↓

2005年 湯田小学校の児童、瀧上中学校の生徒、メンタルフレンド事業で対象としている中学生の参加となる。

↓

2006年 湯田小学校の児童、瀧上中学校の生徒の参加となる。

↓

2007年 湯田小学校の児童の参加となる。

↓

2008年～2015年 同上。

<日程表>

	8月10日(月)	8月11日(火)	8月12日(水)
朝		レクリエーション (肝試し班)	工作 (グランドファイヤー班)
昼	オリエンテーション	自由時間	解散
夜	肝試し (肝試し班)	グランドファイヤー (グランドファイヤー班)	

※尚、8月1日(土)に湯田地域交流センターにて、山口BBS会員と子どもたちとの事前オリエンテーションを企画実施した。

平成27年度 サマースクール 日程

■サマースクール本番

<8月10日(月) 1日目>

- 9:00 湯田小学校体育館集合  
オリエンテーション(各班での旗作り等)
- 11:00 湯田小学校出発
- 13:00 バス降車  
昼食(晴れ→川原 雨→大田原自然の家)
- 14:30 大田原自然の家到着  
入所式  
オリエンテーション
- 15:30 野外炊飯準備  
夕食(カレー・フルーツポンチ)
- 18:30 入浴
- 19:30 肝試し(肝試し班担当)
- 21:00 絵日記  
翌日の目標決め
- 22:00 就寝

<8月11日(火) 2日目>

- 7:00 起床
- 7:40 朝のつどい
- 8:00 朝食
- 9:00 清掃
- 9:30 レクリエーション(肝試し班担当)
- 10:30 野外炊飯準備  
昼食(そばめし)
- 13:30 自由時間
- 16:00 入浴
- 17:15 タベのつどい
- 17:30 夕食
- 19:00 グランドファイヤー(グランドファイヤー班担当)
- 21:00 絵日記  
翌日の目標決め
- 22:00 就寝

<8月12日(水) 3日目>

7:00 起床

7:40 朝のつどい

8:00 朝食

9:00 清掃

9:30 工作(グランドファイヤー班担当)

11:30 昼食(流しそうめん)

12:40 退所式

13:00 大田原自然の家出発

15:30 湯田小学校到着

■事前オリエンテーション

8月1日(土) 13:00~15:00 湯田地域交流センター

(自己紹介・生活班発表等)

<企画について>

○全体（山口市福祉センター、会員の家にて）

3月 19日（木） 総務部・ケース部・実行委員長・来年度実行委員長の合同部会  
…方針決め

3月 19日（木） 会計部・実行委員長・来年度実行委員長の合同部会  
…予算案決め

○サマースクールに関する例会（山口市福祉センターにて） 18:50～19:50

5月 7日（木） サマースクールについて1

6月 4日（木） サマースクールについて2

○企画（山口市福祉センターにて） 18:50～19:50

5月 21日（木） グランドファイヤー班・肝試し班の企画1

5月 28日（木） グランドファイヤー班・肝試し班の企画2

6月 11日（木） グランドファイヤー班・肝試し班の企画3

7月 2日（木） グランドファイヤー班・肝試し班の企画4

8月 7日（金） グランドファイヤー班・肝試し班の企画5（16:00～18:00）

○班長会議（ボランティアセンターにて） 18:30～21:00

5月 25日（月） 班長会議①…スローガン決め、資料確認等

6月 1日（月） 班長会議②…各班の企画進行状況把握、  
下見について等

6月 15日（月） 班長会議③…各班の企画進行状況把握、下見報告等

7月 6日（月） 班長会議⑤…各班の企画進行状況把握、生活班について等

○下見（大田原自然の家にて）

6月7日（日） 9:00～15:30

…使用場所の確認、川原の様子確認、時間計測、施設の方との打ち合わせ等

○応急救護（山口市福祉センターにて）

8月 7日（水） 13:00～16:00

…山口市中央消防署員の方々による普通救命講習 [参加する会員が受講]



○事前オリエンテーション（湯田地域交流センターにて）

8月 1日（土）13：00～15：00

…参加者顔合わせ、生活班発表、自己紹介、レクリエーション、絵日記決め、交流

○事前研修（しらさぎ会館にて）

8月 1日（土）16：00～20：00

…大学生用の細かなスケジュール確認、質疑応答、生活班に分かれて日程確認、動き等の話し合い、各班の企画の確認

○反省会（山口市福祉センターにて）

8月12日（水） 17：30～21：00

…各班の反省、生活班の反省、全体の反省

## <反省・気付いた点・感想>

### ○下見

- ・車の台数が少なく、下見に参加できた人数が限られてしまった。
- ・施設の様子をビデオカメラで撮影し、後日参加者に施設の様子を見せることができた。

### ○事前オリエンテーション

- ・参加する小学生の一名が急遽、本番含め来れなくなってしまった。
- ・始まるまでの時間で大学生が小学生により話しかける必要があった。
- ・注意事項を説明する際に、説明不足な点があった。
- ・子どもとコミュニケーションをとることができ、打ち解けられて安心できた。

### ○事前研修

- ・事前研修まで決まっていないこともあって不安だったが、決められて良かった。
- ・細かいタイムスケジュールや流れをしっかりと理解できた。
- ・本番での自由時間における注意事項を全体で把握できなかった。
- ・きまりや注意事項の説明が不足していた。
- ・上級生が下級生に伝えるべきことを伝えることができていなかった。
- ・施設の宿舎の部屋割りをしっかりと決めておくべきだった。

### ○応急救護

- ・心肺蘇生やAEDの使い方を知ることができてよかった。
- ・熱中症が心配だったので、対処法を聞いてよかった。

<例会 サマースクールについて1> 5月7日(木)

- 目的 1年生に、サマースクールについて知ってもらう。  
1年生がグランドファイヤー班、肝試し班に分かれるための情報収集の場とする。

■内容

サマースクールの説明(5分) …成り立ち、趣旨について  
今年度の日程、場所、参加者等について  
当日の流れ、生活班について  
グランドファイヤー班、肝試し班について  
絵日記製作について

各班の説明(10分) …昨年度の班長に説明してもらう  
肝試し班…肝試し・レクリエーションの流れ、様子、企画について  
グランドファイヤー班…レクリエーション・ダンス・歌・劇・  
グランドファイヤー・キャンドルサービス、  
工作の様子、企画について

上級生による説明(20分) …全体で2班に分かれて、詳しい各班の様子を話す  
生活班の活動の様子(5分)  
各班の説明(7分)  
移動(1分)  
各班の説明(7分)

資料(ハガキ、絵日記、写真等)を参考にする。

まとめ・アンケート(班分け希望含む)(10分)

その後、班分けを発表をした。今年度はグランドファイヤー班31名、肝試し班30名であった。

<改善点・良かった点・感想>

○上級生

- ・参加している1年生が少なかった。
- ・45分という短い時間では説明しきれないことが多くあった。
- ・上級生は、具体例を挙げて説明することができた。
- ・各班の説明をより楽しそうに伝えることが出来た。
- ・本番に参加したことのある人の例会への参加が少なかった。
- ・肝班、グラントファイヤー班のそれぞれの良さを再確認できた。
- ・時間配分の指示があれば良かった。
- ・言葉だけじゃなくて、実際にゲーム等をやってみるとよりわかりやすく、興味を持ってもらえると思った。
- ・各班で説明する上級生に人数の差があった。
- ・1年生に説明するのが難しかった。
- ・1年生に必ずメモを取ってもらうところを指示することができた。
- ・説明が難しかった。

○1年生

- ・体験談を交えた説明があってわかりやすかった。
- ・写真を用いた説明があってわかりやすかった。
- ・楽しさが伝わった。
- ・雰囲気明るくて楽しかった。
- ・先輩が笑顔で安心した。
- ・子どもとたくさんふれあえることが楽しそうだった。
- ・体験談を詳しく聞いてよかった。

<例会 サマースクールについて2> 6月4日(木)

- 目的 サマースクールに参加する上での心構えを確認し、1年生に伝える場とする。  
サマースクールで起こり得る事例を挙げてその対応を考え、意見交換をすることで意識を高める。

■内容

10分 班分け・記述用紙配布  
生活班について説明。

40分 事例研修…今までにあった出来事をもとに、お題に沿って考えてもらう。

- ・お題の中の会員が行った言動が正しいかどうかを○×方式で回答
- ・その理由を2分間考える
- ・班ごとに5分間意見交換
- ・解答と基準となるポイントを発表

①安全・健康(10分)

熱中症にかかった子どもの対応について。

☆実委員長にすぐに報告する。

☆子どもを涼しいところで安静にさせる。

☆こまめに水分補給するように呼びかける。

②決まりを守る(10分)

班を離れ、突然走り出す子どもの対応について。

☆決まりが何だったか、再確認させる。

☆子どもたちはお客様ではない。

☆班行動を徹底させる

③起床時間前(10分)

起床時間前に起きてしまった子どもの対応について。

☆起床時間までは静かにする。

☆子どもを1人で行動させない。

④サマースクール全体(10分)

活動中、他班に子どもが行ってしまったときの対応について。

☆子どもから目と体を離さない。

☆勝手な行動をさせない、しない。

☆子ども一人一人の行動を把握しておく。

10分 まとめ・アンケートの記入…安全面と、子供を預かる意識について確認。

<改善点・良かった点・感想>

[上級生]

- ・生活班の写真があったため雰囲気伝わった
- ・様々なシチュエーション毎の写真があればよかった。
- ・サマースクール当日の動きを想定できた。
- ・問題に対して実際に場を想定して考えを進めていったためわかりやすかった。
- ・安全を第一にして本番に臨んでいきたいと思った。
- ・小学生と接する上で重要なことを再認識することが出来た
- ・班でいろいろな意見交換ができて良かった。
- ・ポイントが簡潔でまとめられていてよかった。
- ・注意点を再確認できた
- ・サマースクールにおける重要な点、認識すべき点を押さえることができた。
- ・安全に楽しいサマースクールにしていきたい。
- ・過去の経験を思い出しながら学べた。
- ・単調に進んでいたの少しアクセントがあってもよかった。

[1年生]

- ・サマースクールにおける様々な規則を知ることができた。
- ・決まりを守ってサマースクールを楽しみたいと思った。
- ・大学生としての自覚をもってサマースクールに参加したいと思った。
- ・子どもを一人にすることが厳禁だと分かったので、注意が必要だと思った。
- ・子どもから目を離すことなくいい緊張感の中でのサマースクールにしたい。
- ・まずは、大学生がルールを確認して守ることが大切だと思った。
- ・実際に起こりそうなパターンをあらかじめ把握でき臨機応変に対応できそうだった。
- ・子どもの対応の難しさを感じた
- ・小学生との接し方がよくわからなかった。
- ・先輩たちの体験談を聞くことが出来てよかった。
- ・小学生との接し方についてもっと知りたかった。
- ・本番では何を最優先させるべきか知ることができた。

## <グランドファイヤー班 企画過程・本番について>

### ■企画1～5の過程

グランドファイヤー班の中で班を分け、主な流れ等を考えた。

\*レクリエーション・歌・ダンス班

…歌、ダンスの曲決め・振り付け練習、レクリエーション決め、道具作り、各説明の練習を行った。

\*劇班 …シナリオ決め、配役決め、道具作り、練習を行った。

\*工作班…案出し、試作、材料を揃えて見本作りを行った。

尚、必要に応じて随時リハーサルを行った。

### ■グランドファイヤーの内容 (晴天)

目的: 歌、レクリエーション①・②、ダンスによって、生活班だけでなく全体の交流を図る。

また、劇を通して火の危険さを知ってもらう。

- ・レクリエーション① (伝言ジェスチャー)
- ・レクリエーション② (パチパチゲーム)
- ・外レク
- ・点火式 (グランドファイヤー)
- ・歌 (燃えろよ燃えろ、夢をかなえてドラえもん)
- ・ダンス (妖怪体操第二)
- ・劇
- ・花火

※雨天時はグランドファイヤーをキャンドルサービスに変更する。

### ■工作の内容

目的: 普段手にすることのない竹を用いて竹ぼっくり、ぶんぶんごまを作成し、自然とふれあう。

#### ■作り方

##### <竹ぼっくり>

- ・竹筒を適当な大きさに切る。→やすりをかける。
- ・穴をあけ、数cmのひもを通し結ぶ。

##### <ぶんぶんごま>

・竹を適当に切る→必要な数だけなたで切り、チップを作る→竹のチップの中心部分にキリで穴を2つ空ける→チップにやすりをかける→穴にタコ糸を通し、端と端を結んで完成

<反省点>

■企画・及び当日について

(レク・歌・ダンス班)

- ・外レクの時間が長かった。
- ・キャンプファイヤー点火時に連携不足な点があった。
- ・花火時の範囲を4等分にする。
- ・「燃えろよ燃えろ」を知らない人が多くなってきたので、違う歌にする。

(劇班)

- ・企画の段階で準備を早めにしっかりするべきだった。
- ・ナレーション不在のため、シチュエーションがわかりづらかった。
- ・台本の内容にもっと面白味があればよかった。
- ・照明の懐中電灯がまぶしかった。
- ・最初に自己紹介をすればよかった。

(工作)

- ・説明をしっかりする。
- ・遊ぶ上、および作業に使う道具の注意事項を説明すべきだった。
- ・時間が余るならばそうめん流し用の箸を作ったらよかった。
- ・班の作業場所を事前に指定しておけばよかった。
- ・ごみを一か所にまとめておくよう指示すればよかった。

(全体)

- ・各班同士の連絡をより密に取るべきであった。
- ・生活班において他班と交流できるような内容にすべきであった。
- ・キャンプファイヤーの周りに線を引いておくべきだった。
- ・今回キャンプファイヤーが燃えにくかったため、野外炊飯の時の細かい薪を使えばよかった。



班長

2年 平野 真央

今年度のサマースクールは、初日に子どもの体調不良、最終日は雨天に見まわれたが無事に二泊三日終えることが出来た。

企画は新入生を迎えた五月から始まった。

班長会議では企画で決まったことを報告したり、次の企画について話した。

また当日のことについて話し合った。

グランドファイヤー班の企画では二日目の夜に行われるグランドファイヤーをメインに企画した。グランドファイヤー班は三つに分けられる。レク歌ダンス班はグランドファイヤーまでの中レク二つと外レクや、グランドファイヤーを囲んで行う歌やダンスを決める。今年の中レクは伝言ジェスチャーゲームと足し算パチパチ、外レクはあんたがたどこさに、歌は「夢をかなえてドラえもん」、ダンスは「ようかい体操第二」に決まった。

劇班はグランドファイヤー後に行う花火の注意点を劇で説明するための台本作りを行った。今年クレヨンしんちゃんのパロディをした。工作班は三日目の午前中に行う竹を用いた工作の企画を行った。今年竹ポックリとぶんぶんごまを作った。

また企画以外に、当日で起こりうる可能性を会員全員で話し合ったり、AEDを使った緊急時の対処を学んだ。

サマースクール二日目は打ち合わせ不足が見られた。

昼頃から三日目の工作に必要な竹を取りに行き、夕方からキャンプファイヤーの為に木を組み立てた。入浴、夕食後に外が暗くなるまで体育館で中レクを二つ行った。中レクの伝言ジェスチャーゲームでは、不慣れな子どもに対して大学生が率先して動いた。足し算パチパチでは、BBSでも初めてのレクの為探し探りで行ったが、まだまだ可能性を感じた。外レクのあんたがたどこさは火の神が着替えている間の時間を稼ぐ役割があるのだが、打ち合わせ不足でお互いが待つ状態になり、火の神がなかなか出てこず対応に困った。

また歌では火の神が付けたグランドファイヤーの火が大きくなるのを待っていたが、なかなか火が大きくなり手間取った。だが毎年このことのようなので、来年こそは手間取らずに行きたい。

その後、グランドファイヤーを囲みながら「ようかい体操第二」を踊った。その時は、裏で次に行う花火の注意点の劇の準備を行っていたのだが、またお互いに待つ状態となってしまった。

劇は順調に進んだが、役者の暗い中での立ち位置の確認や劇中に他のグランドファイヤー班の人が話す役者へ当てる光を誰に当てたらいいのか、等の問題が出た。来年はそのことも企画に取り入れて話し合いたいと思う。

三日目の午前中の工作は途中雨が降ってきたが、事故もなくスムーズに進んだ。説明は少し手間取っていたが、気になるほどの間もなく進んだと思われる。どの班も時間内に作り終え、自分たちで作った竹ぽっくりで遊ぶ時間も十分にあった。しかし、遊ぶ時の注意が少なかったなので、来年はしっかり入れようと思う。

二日目の夜に実施したグランドファイヤー担当の班では、二日目の夜に行われるグランドファイヤーの企画を中心とし、準備が行われた。企画の段階では、班内で、劇を担当するグループ、三日目に行われる工作を担当するグループ、そして、歌やダンス、レクリエーションを担当するグループにわかれて準備が進められた。

劇を担当するグループでは、内容・台本をまず考え、BGMそして配役をきめて練習が行われた。台本の内容は、花火をする際の注意点である。台本の完成は上々だったが、配役を決める段階が遅くなり、また配役全員が集まって練習する時間がなかなかとれず、サマースクール本番に不安を残す形となったことが反省点である。配役を決める段階でどうして遅れたのか、時間に余裕をもって練習する事が出来なかったのはなぜかという反省点を来年に活かせると考える。

工作を担当するグループでは、何を作るかを決定し、まず自分たちで試作した。難易度、工具を使用する際の注意点、そして楽しめるかどうかには焦点を当てて行われた。そして、本番当日の進行や説明に加える注意点を考え本番を迎えた。工作することとなった竹ポックリは適切な難易度で工作後に時間があり、自分が作った竹ポックリで遊ぶこともできた。さらにぶんぶんごまも作ることができ、子どもたちは楽しんでくれていた。反省点は、企画の段階で連絡ミスがあったことだ。試作を作る際の道具がないという事態となり、その時は試作ができなくなった。そこで、企画の進行がやや遅れてしまった。連絡ミスが起こらないように今後は注意しなければいけない。また、来年に向けて、工作で作るものはあまり難しくなく、作った後に遊ぶ時間ができる程度の物が良いと考える。

そして、グランドファイヤー前のレクリエーションや歌やダンスを担当するグループでは、レクリエーションは各人で考えた。さらに、何を歌うか、何の曲のダンスを踊るかを決定し、CD等の準備とダンスの練習が企画の段階で進められた。レクリエーションは、三つ行われ、始めの二つは体育館で、最後の一つは、点火前のグランドファイヤーを囲んで行われた。その後、火の神に火をともしてもらってから、歌を歌った。曲は、「燃えろよ燃えろ」「夢を叶えてドラえもん」である。さらに、ダンスでは、子どもに人気の妖怪ウォッチの主題歌でもある、「妖怪体操」を使用した。その後、花火をする際の注意を取り入れた劇を行い、花火を実施した。目立った事故等なく、無事終了した。三つ目のレクリエーションは外で行われ、暗くなりグランドファイヤーに火を灯すまでの時間で行われたが、なかなか暗くならなくて、同じレクリエーションを何度も繰り返して、途中滞ってしまったことが反省点である。本番では何が起こるかは分からないので、そうした事態も想定して対策をしなければならないのが来年への課題である。

## <肝試し班 企画過程・本番について>

### ■企画1～5の過程

肝試し班の中で班を分け、主な流れ等を考えた。

#### \*肝試し班

…案出し、場所決め、役決め、道具・衣装作り、雨の日用の内容決めを行った。

#### \*レクリエーション班

…案出し、場所決め、説明練習、道具作り、雨の日用の内容決めを行った。

尚、必要に応じて随時、全体で内容把握をした。

### ■肝試しの内容

目的：肝試しを通じて生活班内の交流を図る。

(晴天時) …施設から駐車場を回って施設へと戻るコースとした。最初に怪談を話してから出発し、お化け役がおどかす。

(雨天時) …施設内でDVDを観賞し、最後にお化け役がおどろかす。

### ■レクリエーションの内容

目的：様々なゲームを楽しんでもらい、生活班での交流を深める。

テーマ：海

(晴天時) …5つのゲームで獲得するポイントを生活班で競う。

ゲーム：水鉄砲当て、魚釣り、クイズ、しっぽ取り、ペットボトル当て

(雨天時) …施設内でできるレクリエーションをする。

ゲーム：「ゴロゴロ」、「クイズ」、「私は誰でしょう」

<反省点>

■企画・及び当日について

(肝試し)

- ・情報の共有が不足していた。
- ・お化けが隠れる場所を事前にきめておくべきだった。
- ・子どもをあまりおどろかせすぎないようにすべきだった。
- ・肝試しのルートがわかりにくかった。
- ・テレビを使うことをきちんと施設、実委に伝えておくべきだった。
- ・道具の準備が早めに行えばよかった。

(肝レク)

- ・情報の伝達が不足していた。
- ・当日参加できる班員が少ないことを実委に伝えるべきだった。
- ・ルール説明が肝試し班の班員に伝わってなかった。
- ・テーマ（「海」）に沿っていなかった。
- ・レクリエーションが始まる直前に打ち合わせをしてしまった
- ・クイズのヒントの有無や考える時間制限等のルール決めが出来ていなかった。

わたしたち肝試し班は、サマースクール本番で行う「肝試し」と「肝レク」の2つの活動の企画を主に担当した。

肝試しを担当する班は、ホラーDVDを見た後に、班ごとに分かれて夜道を回る肝試しについて企画した。企画ではまず初めに、どのようなお化けになるのかを昨年の例などを参考にしながら案を出し合った。トイレの花子さんや大仏をするという案が出たが、花子さんの衣装が無かったことやトイレを作成することが難しかったためトイレがなくて花子さんと言えるのかという問題が出た。また、大仏は、被り物を購入する予定であったが、購入してしまうと予算を超えるため、今年は、道路を這いずり回る貞子やムンクに似た被り物のお化け、口裂け女、落ち武者に化けることになった。その後、配役を決めていった。例年、1年生がお化け役をすることになっているのだが、今年は、サマースクールに参加できる1年生が少なく、上級生もお化け役につくことになった。

仮装を決めた後は、雨天時に行う、暗夜行路の内容について案を出し合った。暗夜行路は、体育館内の壁にロープなどの紐を渡し、その紐を伝いながら暗闇の中を進んでいくというもので、その途中で、霧吹きで水を吹きかけることや、怖い音声をラジカセで流すこと、こんにゃくを引っ付けるなどを行うことにした。また、子どもたちを驚かせた後に行うことについても案を出し合った。子どもたちを驚かせた後には、それぞれのお化けがクイズを出し、ゴールをした後には、ビンゴをしてもらうことになった。最後に、サマースクールの下見で確認した、隠れるのに適した場所から大体の隠れる位置を決めたが、なかなか他団体の使用するスペースについての情報が得られず、結局、本番になってから隠れる場所を決めることになった。

肝レクを担当する班は、班ごとに回るレクリエーションについて企画した。まず初めに、テーマについて案を出し合い、今年は、「海」に決めた。次に、肝レク班は、班員が少なく、たくさんの道具の制作や用意ができないため、あまり道具が多くなならないもの、時間のかかりすぎないもの、ルールが難しすぎないものなどの点に注意して、レクリエーションを決定した。結果、紙でできたゼッケンを付けた鬼が逃げ回り、その鬼のゼッケンを水鉄砲で撃つゲーム、魚釣り、クイズ、しっぽ取り、ペットボトル的あての5つを行った。例会では、基本的に、レクリエーションの内容について話し合い、道具作りは、例会とは別日に行った。

## &lt;例会&gt;

肝試しのレクリエーションでは、レクリエーションのテーマ、ゲーム内容を決め、そのゲームに必要な道具の確認を行った。

今回のテーマは「海」で、晴れの日レクリエーション内容は「的当て」、「釣り」、「水鉄砲」、「クイズ」、「しっぽ取り」、雨の日は「ゴロゴロ」、「クイズ」、「私は誰でしょう」をすることにした。全てのレクリエーションに時間制限を設け、それぞれのゲームの点数の合計点で競うルールにした。道具は、「的当て」がペットボトル(的)、新聞紙(丸めてボールにする)、画用紙(点数を書いてペットボトルに貼る)、「水鉄砲」が半紙、そして「釣り」が支柱と糸(釣竿)、画用紙(魚)、クリップと磁石(糸の先に磁石を付け、魚にクリップを付けた)、を準備した。企画以外に肝試し班のメンバーと協力しながら道具作りを行う機会を設けた。

## &lt;本番&gt;

レクリエーションは、2日の朝9:30から1時間程度で、場所は五右衛門風呂の前、なずな、憩の家、ふれあい広場で行った。肝レクは当日参加出来るメンバーが2人しかいなかったのもので肝試し班のメンバーにも直前の準備の手伝いやゲームの司会・進行、実際を手伝ってもらった。

## &lt;反省&gt;

8月12日の反省会では主に肝班内の情報共有(連絡)が出来なかったことが挙げられた。他にも、肝班全体では、余裕を持って準備すべきだった、事前オリエンテーションで、それぞれで決まったことを伝えること、例会で話し合われたことはメモを取って、例会に参加していない人にも内容が行き届くようにその内容を伝えること、新入生は分からなければ上級生に積極的に質問すること等が挙げられた。肝試し班では、当日、テレビが使用できなかったのもしもの場合に備えることと、テレビの使用は実行委員長と大田原のスタッフの方にしっかり伝えること、場所決め、ルート確認、衣装合わせをもう少し早い段階ですべきだった等が挙げられた。

肝レク班では、当日参加できる班員が少ないことを実行委員長に伝える、ルール説明が肝試し班の班員に伝わってなかったこと、テーマに沿っていなかったこと、レクリエーションが始まる直前に打ち合わせをしてしまったこと、クイズのヒントの有無や考える時間制限等のルール決めが出来ていなかったことが反省点として挙げられた。

今回、私は大田原自然の家の下見にも行ったが、具体的にどこをどういう風に見てきたら良かったのか分からず、肝班のメンバーに詳しい事を伝えることが出来なかった。下見で場所や道を確認し、伝えることは肝試し班のルートや場所決めにもとても重要なことなので分からなければ事前に肝班の班員に質問をし、確認をとるべきだった。

1班（小学6年生1人 会員6人）

■ 1日目

- ・ 食事中の会話が少なかった。
- ・ 小学生が会話に入れていない時があった。
- ・ 班行動ができていない部分が多かった。

■ 2日目

- ・ 小学生が体調不良のため早退したため、そのようなときの過ごし方を考えておくべきだった。

■ 3日目

- ・ 周りの班をよく見て行動すべきだった。

■ その他

- ・ 会話の内容をもう少し考えるべきだった。
- ・ ルールを守っていない人が見受けられた。

1年 鳥飼 勇人

サマースクール初日、まずは所定の位置にバスが到着し、宿舎への道のりを各生活班ごとに歩いた。初日全体的に見ても、班行動ができていない部分が多かったということもここから始まったように感じる。各々のペースで歩いて班がぼらぼらになったまま歩くという光景も私たちの班では多くみられ、二日目からはこの反省を生かし、班行動をより意識するように班員全員で統一した。そしてこのサマースクールのメインの一つである野外炊飯では、初日はカレー、二日目はそばめしをつくった。私たちの班は、初日から各個人が自分のやるべきことを見つけ役割分担ができて、スムーズに作業が進められた。しかし、反省すべき点は食事中にあった。朝・昼・晩のご飯に統一して言えることだが、各々が食べることに集中してしまい、会話が弾まなかったということである。他班と比べても、和やかな雰囲気を作り出すことができていなかった。私たちの生活班で最も反省すべき点は、小学生の様子を注意深く気にかけることができなかったということである。私たちの班の小学生は、初日の夜に具合が悪くなり、二日目からは参加することができなかった。不慮の出来事であるかもしれないが、もっと細やかに容態を気にかけていれば起こらなかったことだったかもしれない。しかしながら、初日の肝試しなど楽しみながらも班内で怪我や体調に気を配りながら過ごすことができたことは大きい。アクシデントに遭いながらも、この三日間を安全に充実したものにする事ができた。

3年 松本 雅貴

サマースクールでは野外炊飯、肝試し、グランドファイアー、工作などを行いました。野外炊飯は1日目の夜と2日目の昼に行い、それぞれカレー、そばめしを作りました。肝試しでは1日目の夜に自然の家の周辺を歩いて行いました。グランドファイアーではレクリエーション、ダンス、歌、花火を行いました。工作では竹ぼっくりとぶんぶんごまを作り、竹ぼっくりに苦戦している人、軽々乗れる人様々でした。1班は暑さに負けずとても元気に過ごせたと思います。2日目からは班の小学生が体調不良のため欠席しましたが、周りの班をよく見て行動できていたのではないかと思います。この3日間スムーズに進んだとは思いますが反省点として集合時間が守れていなかったことがあったと思います。スケジュールをしっかりと把握していないことや、きびきびとした行動ができていなかったことが原因に挙げられます。スケジュール表が配られていたので、それをしっかり見て事前にある程度予定を把握しておくのが大事だと思いました。また私たちの班のように途中で小学生が体調不良で帰ってしまった場合の残りの2日間の過ごし方をどうすればいいのかを考えておくべきだったと思います。他班の小学生の様子を見ていましたが、どう過ごせばいいかわからなかったというのが正直なところでした。そういった点も次回参加する際には考えておきたいです。反省点も多くありましたが、この3日間大きな怪我もなく参加者全員が充実した3日間を送れたのではないかと思います。



## 2班（小学6年生1人 会員5人）

### ■ 1日目

- ・バスの中で大学生の内輪話があった。
- ・川遊びで、大学生同士で遊んでいることがあった。
- ・就寝時、にぎやかでなかなか寝つかなかった。

### ■ 2日目

- ・草すべりの時は長袖着用が望ましい。
- ・自由時間で、小学生が真似したら危ない行為を大学生が行っていた。
- ・自由時間で子どもと遊ばず休んでいる人が多かった
- ・野外炊飯で子どもと、より協力して片づけができた。
- ・野外炊飯で作業に集中してしまい、子どもから目が離れてしまう時があった。

### ■ 3日目

- ・雨が降っていたので、ずっとレインコートを着させるべきであった。

### ■ その他

- ・団体行動、帽子の着用ができていなかった。
- ・就寝時間を守るべきであった。

## 1年 福場数与

2班の班員は大学生5人、小学生1人の合計6人だ。サマースクール中、基本的にはこの6人で行動をとった。宿泊場所は大田原自然の家のログハウスで、男女で別々に分けられた。2班は男子2人、小学生を含めた女子4人で分かれた。

初日の日程は1.湯田小学校集合 2.バス移動 3.昼食 4.川遊び 5.自然の家まで徒歩 6.野外炊飯 7.肝試し 8.就寝。初日で報告すべきだと感じたのは川遊び、自然の家まで徒歩、肝試しだ。川遊びは小学生だけでなく大学生も楽しんだが、大学生が楽しみすぎているところがあった。川は危険なので小学生の行動には特に注意する必要がある。自然の家までの徒歩は全員でするつもりだったが、進行のスピードが違い、班ごとに分かれていた。だが結果的に少人数になることで大学生と小学生が会話をしやすくなったと感じた。肝試しでは小学生があまり怖がっていなかったことから自分たちがいることに安心してたと解釈できる。

2日目、3日目は朝の集いや夕べの集いでもう一度ルールを確認したこともあって班行動や基本的なルールもある程度できていた。2日目、3日目のレクリエーション、グランドファイヤー、野外炊飯、工作は特に大きな問題なく終わることができた。だが最終日の雨への対応が遅れた。また小学生がどのように帰宅するのかがわかっていなかったのもこれは前もって保護者に教えてもらうべきだった。

2年 那波 夕貴

私の生活班は、小学生1人と大学生5人でした。サマースクールでは飯盒炊爨や清掃、工作など、班で協力して行う活動がたくさんあります。特に班員の協力が必要だったのが飯盒炊爨です。1日目はカレー、2日目はそば飯を作りました。同じ班の小学生が積極的に薪割りを行っていたのが印象的です。班で協力して作ったご飯はとても美味しくできました。食べ終わった後も、みんなで分担して皿洗いや後片付けを行いました。

また、班で行うレクリエーションや肝試しで、小学生との距離がいつそう縮まったように思います。自由時間には、水鉄砲や缶蹴りなどをし、他の班の小学生とも関わる時間を取ることができました。グランドファイヤーでは、みんなで歌を歌ったりダンスを踊ったりと、小学生・大学生ともに楽しい時間を過ごせました。その後、劇で注意されたことを守って、班ごとに安全に花火を楽しみました。

工作では、竹を使って竹ポックリとぶんぶんごまを作りました。キリやナタを使い、小学生には難しい部分を手伝いながら協力して作りました。同じ班の小学生は、薪割りでナタの使い方を覚え、大学生よりも手馴れた様子で竹を切っていました。

3日間のサマースクールはとても充実した活動になりましたが、その分反省の多いものになったと思います。帽子をかぶる、班行動をするといったような基本的なルールを、大学生が守れていないことが多く見られました。小学生の見本となる大学生がルールを守ることを徹底する必要があると思います。また、班員が小学生から目を離してしまうことが何度かありました。怪我のないよう、小学生の安全には気をつけなければなりません。

3日間という短い時間でしたが、小学生と深く関われるサマースクールになりました。今年の反省を活かして、来年もよりよいサマースクールを作り上げたいと思います。

### 3班（小学6年生1人 会員5人）

#### ■ 1日目

- ・班行動を徹底すべきであった。
- ・言葉遣いが良くない時があった。
- ・注意すべきところはきちんと注意すべきであった。
- ・食事の片づけ中、小学生とコミュニケーションがとれた。

#### ■ 2日目

- ・草すべりのとき3人一斉に滑ると危なかった。
- ・小学生の名前を呼んだ回数が少なかった。

#### ■ 3日目

- ・大学生の見本で悪いものがあった。
- ・帰りのバスでの子どもに対する対応を考えられたらよかった。

#### ■ その他

- ・安全への配慮が足りなかった。
- ・子ども同士で交流する時間をきちんと決めておくと班行動もきちんとできたであろう。

1年 杉中 祐太

まず1日目の川遊びの後だが、目的地まで行くのに子どもが走り大学生が追いかけるという形になっていた。これが原因で目的地に着く時間に班ごとでずれが生じた。野外炊飯では、1日目ということもあったのか会話が少なかった。子どもの方から話を振るという場面が多々あったので、大学生の方から声掛けをすべきだった。

2日目に気になったのは自由時間である。草すべりの時に長ズボンをめくっている子どもがいたが怪我をする可能性が大幅に上がり危険である。また、大学生もしくは子ども同士で並行してすべるということがあった。私は下の方から見ていたが大変危険であった。大学生と一緒にすべるのではなく、注意を促す声掛けが必要であった。服装も含めて草すべりの前に伝えられることはきっちり伝えるべきであった。子どもの誘いでかくれんぼをしたが、参加者が少なかった。周りをみると、大学生同士で遊んでいる物や、遊びに参加しようとする者がいた。子どもがいてこそそのサマースクールなのに本来の目的を失っているような大学生の行動は反省点である。2日目の野外炊飯は会話が増え、子どもと大学生の距離がより縮まった。ただ、積極的に話す子だったからか話を振るのはやはり子供の方からだった。したがって、反省会では自分たちのことは聞かれて答えたが子どものことは少ししか理解できていないという反省点がでた。これは、大学生の積極性が欠けていると言わざるを得ない。

3日目は工作の時間である。物作りに一生懸命になるのは良いが子供が道具を使うときには目を離してはならない。特に工作はのこぎりなど危険な道具を使うので目を離した一瞬に怪我をする可能性がある。細心の注意を払うべきであった。

この3日間での経験を無駄にせず、今後の活動及び次年度のサマースクールで生かしていきたい。

## 2年 佐藤 大介

サマースクール1日目は、湯田小学校から自然の家までバスで移動し、夕方には野外炊飯、夜には肝試しを行った。湯田小学校を出発する前は自分たちの班の名前を決め、各自の名札作りをした。そうしたこともあり、参加した小学生もバスを乗るまでには同じ班の大学生に心を開き始めたように感じた。野外炊飯では、それぞれ役割分担をし、協力してご飯を作ることができた。夜に行った肝試しでも、大学生、小学生ともに楽しく行うことができた。

2日目は、昼前に野外炊飯を行い、その後の自由時間では小学生と遊んだ。夜にはグランドファイヤーをした後、班ごとに花火をした。2日目の野外炊飯は1日目とは違い、班長である小学生が指示を出し効率よく行うことができた。自由時間では、缶けりや縄跳び、水鉄砲などで遊んだ。何をして遊ぶのか決められていなかった分、小学生は自然体で遊んでいたように感じる。グランドファイヤーと班ごとに行った花火は、安全かつ楽しく行うことができた。

最終日の3日目の竹を使った工作では、竹ぼっくりと竹のぶんぶんゴマを作った。時間に余裕があったこともあり、作った後には楽しく遊んだ。昼食の流しそうめんでは、そうめん以外にミニトマトも流れてきて、なかなか箸で取ることができず、特に小学生は楽しんでいった。その後、退所式などを行い、自然の家からバスで出た。湯田小学校到着後、各班と全体で記念写真を撮り解散した。

全体を通して、大学生と小学生ともに楽しむことは出来たが、もっと班行動を行うときには班行動をとる、大学生が小学生の見本となれるように、行動するなど多くの反省点があった。

4班（小学6年生0人 会員5人）

※事前オリの段階で小学生が急遽来られなくなってしまったため

■ 1日目

- ・会話の無いように配慮が欠けていた。
- ・他班のサポートがあまりできていなかった。

■ 2日目

- ・自由時間の過ごし方に気になる点があった。
- ・1日目の反省を活かし、周りに気を配ることができた。

■ 3日目

- ・携帯ではない目覚まし時計を用意しておくべきだった。

■ その他

- ・子どもがいない班の役割について、事前に話し合っておく必要があると感じた。

1年 石橋 加奈子

サマースクール1日目は、昼食の後に川遊びをした。みんなと一緒に川遊びを楽しんだことで、大学生と子どもたちの距離が近づいたように感じられて嬉しかった。しかし、自分たちから子どもたちに対して、もっと積極的に話しかけることができているならば、より距離を近づけることができていると思う。野外炊飯では、子どもたちが大学生に手伝ってもらいながら、一生懸命に薪割りに挑戦する姿や楽しそうに皿を洗っている姿が見られた。夜には肝試しも行われた。子どもたちは、寝る前にも大学生に怖い話をするなど、とても楽しんでいただいていたようだった。2日目は、レクリエーションで走り回ったり、自由時間には、草すべりをしたり水鉄砲を使ってみんなで遊んだりしたので、私たちも他の班の子どもたちと関わるができる機会が多かった。また、広い範囲を使って大人数で遊ぶことができたことで、子どもたちもより楽しそうだったのではないだろうか。グランドファイヤーの前に行われたレクリエーションでは、班の人と協力して行うものも多く、同じ班内の人とも、より仲良くなれたのではないかと思った。グランドファイヤー中には劇も行い、花火をする時の注意事項を子どもたちに伝えた。その注意事項を守って、子どもたちは、楽しそうに花火をしていた。3日目は、昼食に流しそうめんを食べた。子どもたちは、途中で流れてくるミニトマトを取ることが難しかったようだったが、とても楽しそうにそうめんやミニトマトを食べていた。

この3日間で、多くのことを学び、また班の人と協力して、とても楽しい時間を過ごすことができた。

今回のサマースクールで、私は小学生のいない大学生のみで構成された班になった。そのため、どのように子どもたちと関わるかが難しい立場であった。班で話し合った結果、第三者として小学生の様子を観察し、陰ながら他班のサポートをしていこうということになった。小学生と直接は関わらずとも、自分の役割を果たそうと目的を持って参加した。

本番は予想と異なり、子どもたちと関わる事ができた。活動のほとんどが班活動であるために、子どもとの接触はあらかじめしていたが、班行動に移る前の少しの時間に子どもから自己紹介をしてくれた。積極的に交流しようとする姿勢に、自分も見習わなければいけないと思った。その後も子どもと同じ部屋割りになり、たくさん話す事ができた。こちらから気をつかって話しかけることもなく、自然に話す事ができた。本人は、いつもと違う環境で少し興奮している様子が見られたが、注意されたときもきちんと受け入れている様子だった。

サマースクールを終えての自分の反省点は、子どもと関わっていないときの自分の行動である。班に大学生しかいないことによって、会話の配慮がかけられている場面があった。私たちの班が盛り上がっていて、その声を聞いた子どもから何の話題か聞かれたときはうまく説明できなかった。子どもがいるということの自覚が足りなかった。また、班の目標であった小学生の様子を見ることはできたが、他班のサポートまではできなかった。班員の中には、その目標を達成した方がいたことから、自分は見落としていたのだと自覚した。今回の経験を生かし、次回のサマースクールは「周りを見ること」も考えながら参加したいと思う。

## <全体の反省>

### ■水分補給

- ・行きの山道で、緊急車両で途中参加者の水分を足すことができ、水分不足の人はいなかった。
- ・配ったお茶の量は適正であった。
- ・熱中症対策で塩飴を持参した、適宜子ども含む参加者全員になめさせることができた。

### ■会員

- ・言葉遣いがよくない会員がいた。
- ・子どもに対する配慮ができていない場面が見受けられた。
- ・内輪話が多かった。
- ・体力のない会員が多かった。

### ■子どもについて

- ・小学生3人で固まっている場面が多く見受けられた。
- ・就寝時騒がしく、注意ができたらよかった。

### ■その他

- ・子どもと他班の会員の関わりが多くあり、全体での交流はできていた。
- ・屋外では帽子をかぶるルールを作っていたが、徹底できていなかった。
- ・部屋割りやお風呂の時間をもっと配慮できたらよかった。
- ・虫よけ対策は徹底できた。
- ・大学生としての対応について事前にしっかり伝えられたらよかった。

<反省・感想>

実行委員長 蒲 英樹

今年もサマースクールを無事に終えることができました。  
至らない点ばかりで参加者に迷惑をおかけしましたが、一生の思い出に残る充実した活動となりました。

私は今回のサマースクールでは、まず自分の仕事がこなせるのか不安でした。なぜなら、前年度の実行委員長からの引継ぎで上手くいっていない部分があったからです。企画と本番中の実委としての立ち回りがわからず、会員を混乱させることも多々ありました。そのような状況でも会員の皆様がささえてくれたので、何とか乗り切ることができました。

このような状況であったこともあり、本番ではスケジュール通りに行くことだけではなく「安全健康第一」を目標に活動してきました。その結果熱中症やそれに近い症状になった人は一人も出ませんでした。しかし、1日目の夜に子どもの一人が体調不良を訴え救急搬送することになりました。診断の結果、慣れない環境による緊張と興奮からくるものだったので大事をとって早退させました。最終日には元気になって顔を見せに来てくれたのでよかったです。

今回子どもが早退することになってしまったことの直接的な原因とはなりません、大学生側の子どもの預かるうえでの自覚と責任が足りなかったように思えます。内輪話で盛り上がりすぎたり、班から離れてしまっている子どもについていかなかったり、帽子をかぶるルールを大学生が守っていなかったりしていた大学生が目立ちました。自分が実委の仕事で手いっぱいであるような注意点を大学生に気づかせてあげられなかったことが最大の原因だと思います。

今回、サマースクールの参加人数が大学生22人、小学生4人（当初）と、大学生、小学生ともに人数が少なく、例年よりもさらに小規模な活動となりました。特に大学生の人数に関しては会員全体の人数も毎年減少傾向にあり、サマースクール参加者も来年以降さらに減少することが懸念されます。今年は企画の参加者が肝試し班、グランドファイアー班ともに少なく、企画が思うように進んでいなかったように思えます。そのため、本番であわてる場面も多く見受けられました。大学生は忙しいのでなかなか全ての企画に参加するのは困難だと思われませんが、そのような状況下でこそ会員一人ひとりが自覚を持って参加することが重要だと思われれます。

今回半年間実委として仕事を続けてみて一番感じたことは、人の前に立ち、指示を出していくことがとても難しいということでした。そして、引継ぎと経験は仕事をこなすうえでなくてはならないものだと思います。前年度実委が途中で退会したため引継ぎが中途半端だったこと、去年が台風で中止だったことにより、実委としての立ち回りを経験していなかったことにより、何をすればいいのかわからない場面が多々ありました。今年度は自分の経験を来年以降にしっかりと引き継いでいくつもりです。



今回アクシデント続きのサマースクールとなりましたが会員の皆様、施設の方々の協力があつて乗り切ることができました。サマースクールは自分一人では成立しないのだと改めて実感しました。

最後になりましたが、大田原自然の家の皆様、関係機関の皆様、湯田小学校の職員の皆様、保護者の皆様のたくさんのご理解、ご配慮、ご指導のおかげでサマースクールを開催することができました。本当にありがとうございました。

そして、様々な協力をしてくれた総務部、ケース部、会計部の皆さん、各班の企画や例会作りに協力してくれた班長、副班長、企画・本番に携わり、多くの協力をしてくれた会員の皆さん、本当にありがとうございました。